

K O B E
O J I Z O O

APRIL 2003 No.52
神戸市立王子動物園 第52号

はばたき

神戸の動物園グラフ

はじめに



「動物バリアフリーと茶目子 そして総合学習について」

神戸市建設局長 安藤 嘉茂

今年3月、長年の悲願であったカバ舎の改修工事（屋外の運動場とプールの改修それに伴う新カバ舎）が、動物の視点にたち、動物の生態系に配慮した施設⇒動物バリアフリーの理念の基、ついに完成を見ましたことは、関係者の一人として感慨深いものがあります。

そもそも今回の新カバ舎の建設契機は、雌で国内最長寿の茶目子（チャメコ・49歳）が、日頃、屋外の運動場からプールへの昇り降りをかなり辛そうにしていたことや長年にわたり繁殖に多大な貢献（国内最多産級の17頭を出産し国内外に多数の子や孫が健在）をしたことに対し、余生を少しでも安楽に過ごしてもらいたいとの関係者一同の茶目子への熱い思いが、厳しい財政事情の中、通じたからだと思います。

しかしながら、肝心の茶目子が、昨年10月27日早朝、新しいカバ舎と運動場の完成を見ることもなく残念ながら天国に召されてしまい、痛恨の極みでした。心より茶目子の冥福を祈るばかりです。今後は、壮年期とも云える出目男（雄・21歳）の後添えを出きるだけ早い時期に迎えることが茶目子への供養になるのではないかなと思っています。

ところで、21世紀の動物園の使命は、レクリエーション・教育・自然保護・繁殖研究の4つの社会的役割にあると言われています。この点からも今年度から始まった小中学校を対象とした総合的学習において自然、環境、地域を学ぶことが謳われ、これに呼応する形で（社）日本動物園水族館協会は、一昨年の総会で「動物園・水族館は、（略）、学校教育との連携を深め、次世代を担う子どもたちの、総合的学習の場として機能をさらに充実」させるとの決議は意義あることと思います。地域に密着した動物園を目指す王子動物園としては、今後、地元小中学校と提携し、自然体験に基づく環境学習などを積極的に取り組むことなども必要と考えております。このように動物園の役割はますます重要になってくるものと思われます。

平成15年3月

目次 CONTENTS

表紙	カバ「茶目子」	写真／谷岡正之
p1	はじめに「動物バリアフリーと茶目子そして総合学習について」	神戸市建設局長／安藤嘉茂
p2	トピックス・イベント	文と写真／福本憲一 穴戸正芳
p3-4	動物たちへのエンリッチメント ①～快適な施設～ゴリラ編	文と写真／川上博司
p5	②新カバ舎の紹介 カバ編	文と写真／関 和也
p6	③ハイテク施設と環境改善 コアラ編	文と写真／中岡正利
p7	④ジャイアントパンダ編	文と写真／兼光秀泰
p8	⑤インドゾウ編	文と写真／石川康司
p9-11	カバの茶目子追悼特集 「王子動物園とともに45年」	文と写真／川上博司
p12-13	動物図鑑シリーズNO.1「カバ」 " NO.2「ゴリラ」	文と写真／川上博司
p14	こども動物相談から ZOOっとタイムスNO.18	文／鈴木 忠 マンガ：かわかみひろし
p15-16	第35回「ひつじ年賀状版画コンクール」から	
p17-18	資料館情報「特別展から」	文と写真／安宅範子
p19	動物の話題・ニューフェース	文と写真／清水哲夫
p20	動物病院より	文と写真／山田亜紀子
p21-22	賛助広告	
裏表紙	カバ「茶目子ファミリー」	副園長／石川 理



☆インドゾウ「ズゼ」をはかる集い☆

(平成14年11月3日)

時の記念日にちなみ、今年も「ズゼ」の体重を量りました。今回は去年より少し軽くなって3,637kgでした。



☆ジャイアントパンダ「コウコウ」のお別れ会と2代目「コウコウ」の歓迎会☆

2年以上の間、市民に愛され親しまれてきた「興興(コウコウ)」が、生まれ故郷の中国大熊猫繁殖センターへ返還されました。これに先立つ平成14年11月30日、関係者をはじめたくさんの方々に見守られ、お別れ会が実施されました。



「さよならコウコウ」

☆「入園者5,000万人達成」のお知らせ☆

(平成14年11月9日)

1951(昭和26)年3月21日の開園以来、入園者が5,000万人に達しました。これを記念して、5,000万人目の入園者に松下神戸市助役より認定書と記念品を贈呈させていただきました。また、来園された皆様にも記念コースターをプレゼントしました。



▶「歓迎」2代目「コウコウ」



平成14年12月9日に2代目「コウコウ」(オス・7歳)が、無事元気な姿で到着しました。食欲も旺盛で健康上の問題もなく12月21日には、降りしきる雨の中、駐大阪総領事館領事の趙大為氏に出席いただき、歓迎会を行いました。



①快適な施設

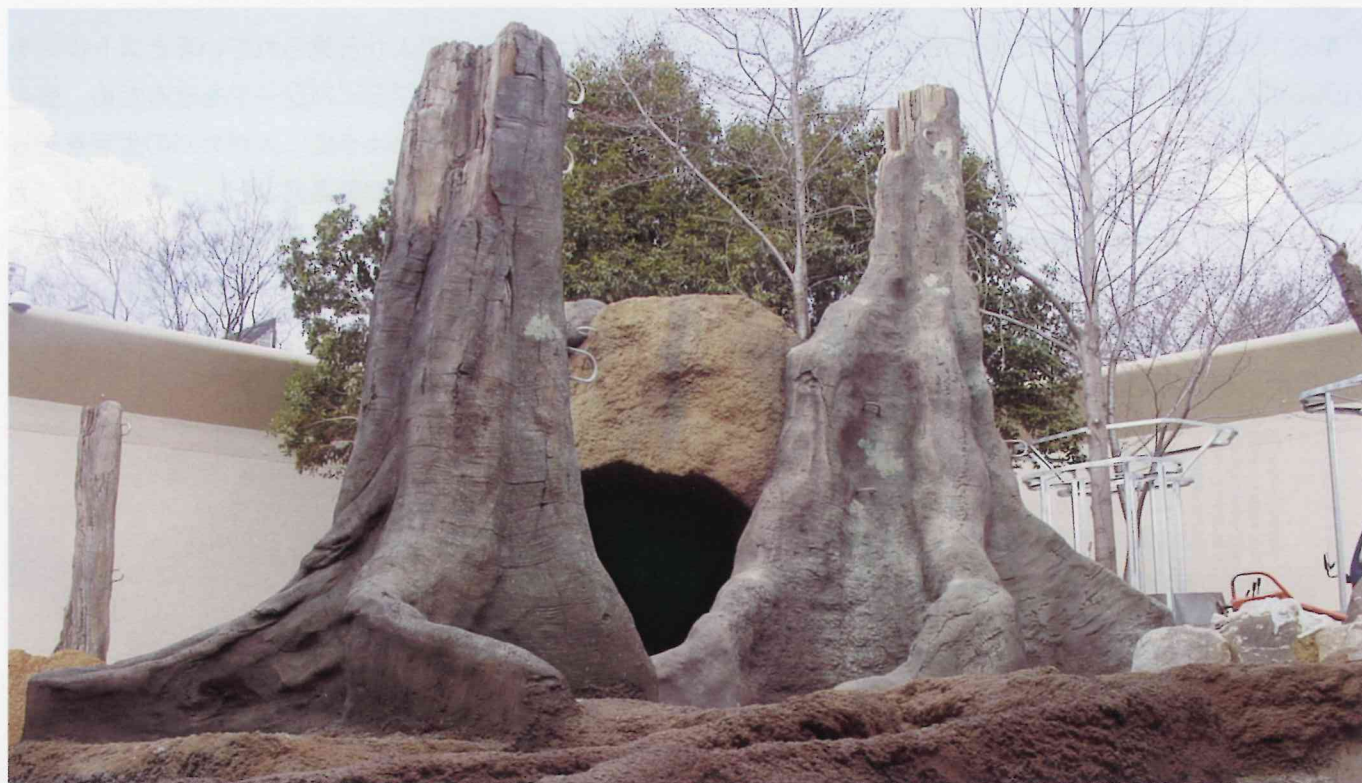
ゴリラ編



王子動物園では、1963年からゴリラ（ニシローランドゴリラ）の飼育を行っていましたが、国内での繁殖を目指して立てられた計画により、ブリーディングローン（繁殖の為の動物の貸し出し）として京都市動物園に貸し出すことになりました。1992年11月25日に先発でメスの「康子」が旅立ちました。残されたオスの「健太」は相当寂しかったのか、一時食欲もなくなりました。京都市動物園で飼育されていたオスが死亡したこともあって、「健太」も1998年11月18日に京都市動物園へ、「康子」や京都のゴリラたちとの繁殖計画の為に旅立ち、王子動物園にはゴリラが居なくなっていました。今でも一般の来園者の方々が

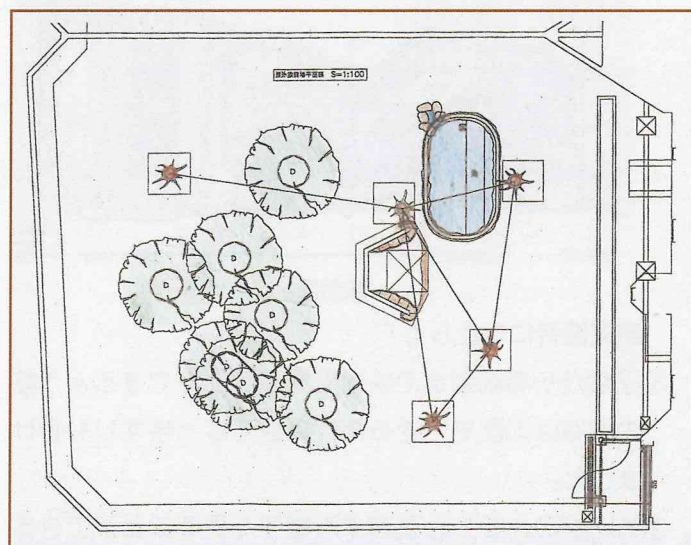
ら、「ゴリラはどこにいますか？」という質問も多く、ゴリラの人気を物語っています。ブリーディングローンの期間も終わりに近づき、神戸への里帰りも間近になって、以前はライオンやトラといった大型ネコ科動物と並んで展示されていたゴリラを、類人猿舎に戻すため、2002年に一年以上綿密な打ち合わせを経て、施設の改修工事が開始されました。新住居は「放養式動物舎」という施設の中で、キンシコウが飼育されていた場所です。キンシコウ舎をゴリラ用に改修するのは制限も多く、その中で脱出防止対策や安全性、最も大切な快適性を求めるなど大変な工事となり、飼育担当者は頭を痛める日々が続いています。新ゴリラ舎は従来のゴリラ舎のような、檻の中での俗に言う鳥かご飼いか、高さ8～10mの自然な樹木と、高さ5.5mを筆頭に5本の凝った擬木、大掛かりな擬岩と床暖房が施されたシェルターなど、一面の土と緑の運動場から成っています。外国の動物園では普通になりつつある樹上活動の場所として、ロープをふんだんに使い、樹冠部での移動や上り下りを行える設計としています。これは従来多くの動





物園で見られる、地上と若干の木組みなどで昇り場を設置した展示とは違った、日本では初めての試みとなる予定です。現在は工事の進行とともに更に細かな改善点で苦勞していますが、今年夏前に京都市動物園より「健太」が5年ぶり、そして「康子」は10年ぶりに里帰りします。「健太」と「康子」が、

快適な生活をおくり、近い将来には可愛い神戸生まれのゴリラを見ていただけるよう、動物園職員は一層努力をいたします。どうぞご期待ください。



サル類の生息部位 (当園飼育のサル類の場合)

上層部分 (樹冠)

25m以上

- ・キンシコウ
- ・チンパンジー
- ・クロシロコロボス
- ・ハナジロゲノン
- ・ブラッサゲノン

中層部分

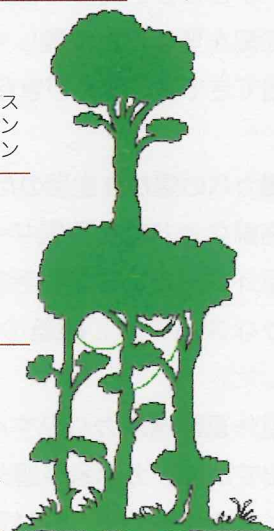
10~25m

- ・チンパンジー
- ・リスザル
- ・フサオマキザル

下層部分

0~10m

- ・チンパンジー
- ・ゴリラ
- ・マンドリル
- ・ワオキツネザル



②新カバ舎の紹介

カバ編

平成15年3月末に完成する新カバ舎（全体面積約990㎡）を紹介します。

■経緯

旧カバ舎は1956年（昭和31年）に建設され、翌年10月には大小のプール、シュロの植え込まれた遊歩道付きの豪華な屋外運動場も建てられ、広さ約410㎡（全体面積）となりました。



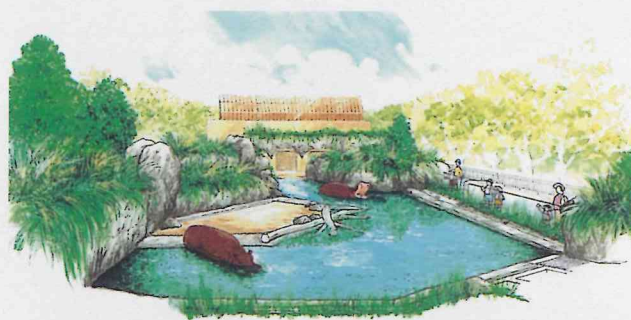
昭和32年10月14日の新聞記事

しかし、近頃は老朽化が進み、建物や設備の傷みも目立ち、また展示方法についても現在主流になっている生態的展示からは少し離れたものとなっていました。また、飼育していた雌のカバ（茶目子）は1953年生まれで、国内2番目の長寿記録を更新していましたが、寄る年波には勝てず、屋外プールの急勾配を登ることが難しくなり、日々の生活に問題が出てきて建て替えが急がれていました。

■カバの豊かな生活のために

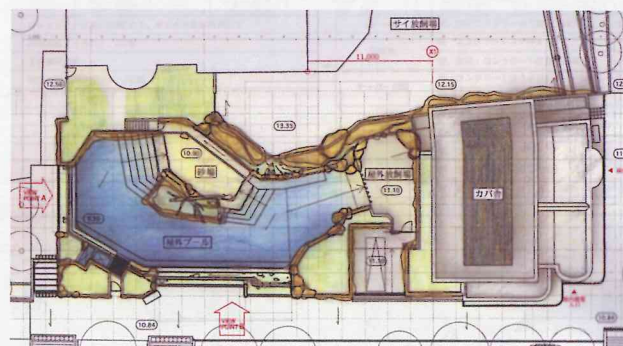
- ①高齢なカバでも問題なく生活できるよう、室内から屋外プールまでの生活空間をバリアフリー化（緩やかなスロープ、段差の解消など）することにしました。
- ②屋外運動場はカバのすんでいるサバンナの雰囲気を出すため、カバ舎や屋外プールは擬岩によってマサイ族の住居のような材質にし、水辺にはイネ科の植物などを植えることにしました。

③動物は常に多くの人から見られているとストレスを感じます。カバのプライバシー？を守るため、野生動物を観察する時のように、人がカバの生活をそっとのぞくよう屋外の観覧通路はビューポイント（カバを見る所）を設け、そのポイントからはできるだけ人工的なものが見えないよう擬岩や植物などで工夫することにしました。



西側から見た完成予想図

- ④室内のプールは将来の出産に備え、雌用を雄用より大きくし（1.5：1）、また、プールから上がって餌を食べる陸地部分も広くして、屋外にできない日でも快適に過ごせるようにしました。また、病気になってプールから上がれなくなった時のことを考え天井にはカバを吊り上げることができるようにレールを取り付けました。



配置図

■来園者にやさしく

- ①子供から高齢者まで快適に見ることができるよう室内通路は勾配をできるだけ少なくし、手すりも付けました。
- ②カバがのんびりと昼寝する様子を見ることができるよう屋外プールに陸地を作りました。

③ハイテク施設と環境改善

コアラ編

平成3年からクィーンズランドコアラの飼育を始めました。皆さんもよくご存知のとおり、コアラはオーストラリアだけに生息し、ユーカリの葉しか食べない非常に偏った生態の動物です。



このような動物は、他の動物に比べても弱いところが多く、気候の変化などのちょっとした環境の変化に影響を受けやすいのです。

コアラの屋内展示場は、天窗をはじめ観覧通路やバックヤードなどが、ガラス面になっており、太陽光線を常に浴びるようになっています。冬期の室温は23～24℃に設定され、床面は床暖房が入り、天井には遠赤外線暖房が完備されています。



夏期の室温は26～27℃に設定され、ガスエアコンにより一年を通して快適な生活を送っています。また、展示室内の照明は、蛍光灯（トゥルーライト）を使い、太陽光線に近いといわれている光を放ち、

コアラにとって健康を重視した施設になっています。

その他には、展示室内にテレビカメラが設置されており、コアラの行動や採餌している様子が、管理室のテレビモニターで観察できるようになっており、また、録画することもできるので、貴重な夜間行動も記録することができます。

もし、空調設備などに異常があれば、警備会社にオンラインで結ばれており、当園の担当者に連絡が入るようになっているのです。至れり尽くせりのハイテク獣舎です。

昨年の夏に新しい試みとして、室内の床に敷くゼオライトという物質（白い石で粒状）から自然のマサ土に入れ替えました。

ゼオライトは、アンモニアを吸着除去し、悪臭を防ぐ効果がありますが、劣化すると白い粉となって舞い上がり、それを吸うと呼吸器（のど）にはよくありません。

また、室内エアコンのフィルターの目詰まりもひどく、マサ土に替えてからは、エアコンフィルターの目詰まりも少なくなり、空気も澄んできたように思います。

このようなことから、コアラも快適に生活していると思われ、これからも、自然界により近い環境改善に努めて行きたいと思います。



ゼオライト

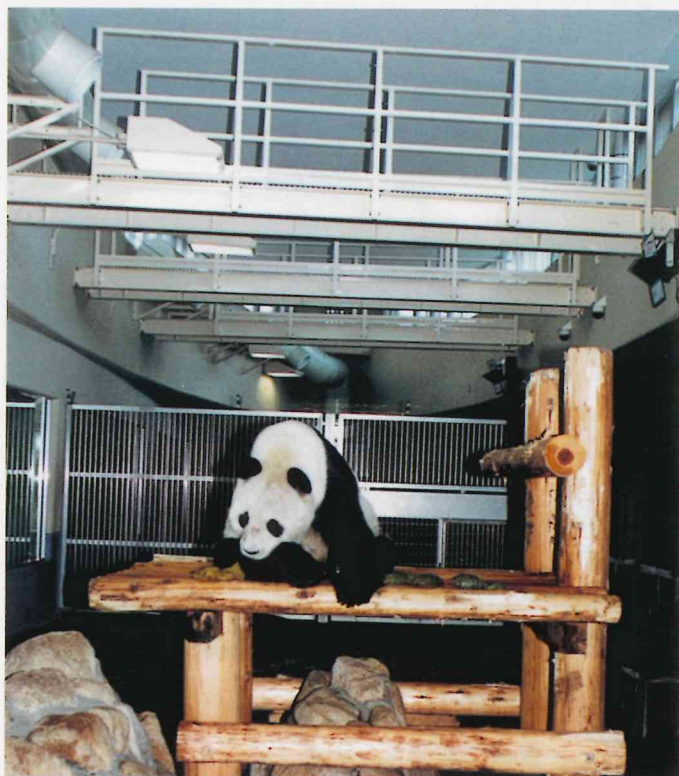
マサ土

④ ジャイアントパンダ

ジャイアントパンダ編

春の交尾シーズンを前にして、パンダ館の屋内展示場の上部に渡り廊下を作りました。

野生のパンダは群を作らず単独で生活しています。雌雄が一緒になるのは交尾シーズンだけです。動物園でも交尾シーズン以外に雌雄を同居させると闘争が起こる可能性が高いため、雌雄を分離して飼育しています。そして雌の発情のピーク前後2～3日だけ1日1回同居させる予定です。しかしパンダにも人間以上の相性の問題があって、相性が悪いと噛み合いの闘争に発展してしまいます。このときに雌雄を分離するにも飼育係が運動場に入ることは危険なため出来ないのです。今回渡り廊下を設置しました。これによりパンダの上部の渡り廊下から、竹の先にリングなどの好物を刺してパンダの顔の前に持ってきて雌雄の分離を促したり、最悪の場合は水をかけることも行わなければなりません。



これも一刻も早く雌雄を分離しパンダの怪我やストレスを最小限に抑えるためのものです。動物園で行うエンリッチメントとしては、まず、動物が生活しやすい環境を整えることが第一ですが、その上で飼育管理上でもストレスを最小限に留めるような施設にすることも重要です。



⑤インドゾウ

インドゾウ編

当園の象舎の放飼場は、ほとんどがマサ土という種類の土で覆われています。飼育係にすれば、夏には土埃が舞い、雨が降ればぬかるんで掃除がしにくいだけのようですが、象にとってはとても大切なことなのです。放飼場のところどころに穴が空いているのは、象が掘った跡です。象は前肢の足先で、蹴るように掘っていきます。歩くことによって爪は擦り減りますが、穴を掘ることによってきれいに爪が擦り減っていきます。

国内最高齢のすわ子は、今はほとんど外に出ることがありません。放飼場を歩き、前肢で土を掘っていれば、あれだけ爪が伸びることもなかったかもしれません。

また、象の皮膚は、2～4cmと厚みがありますが、とてもデリケートなのです。象はその皮膚に土を浴びることにより、虫や直射日光から守ります。濡れ

た体で土を浴び、体を壁にこすりつけば古い皮膚も落としやすくなります。しかし、飼育係には、ただそれだけのようには見えません。土を浴びている時の象は、とても楽しそうに見えます。

マックとズゼの2頭がプールから出てきて土を浴びた後、お互いに体をこすりつけていると、あたかもおしくらまんじゅうをして遊んでいるように見えます。

それでは外に出ないすわ子は、土浴びが出来ないと思われるでしょう。すわ子には暖かい季節の夕方だけ扉の外に餌と水で濡らしたマサ土を置いてやります。すわ子は周りを気にしながら体を出し、餌を食べ、土を浴びて戻っていきます。

そんな象たちのため、今日も飼育係はマサ土を一輪車にのせ、放飼場に補充しています。



王子動物園とともに45年 国内カバ第二位の高齢の別れ



左：茶目子 右：三代目 出目男

当時、夫婦だった初代の出目男が、1956年9月25日に当動物園にやってきました。当初は、飼育施設（カバ舎）が間に合わず、現在のゾウ舎の一室を借り、緊急的に収容しました。当時の飼育係は、カバと対面したゾウの驚きを鮮明に記憶しています。遅れること8ヶ月後の1957年5月21日にアフリカからメスカバ「茶目子」がやってきました。夫婦は、現在の動物園内北方に位置するカバ舎に定住することになりました。温厚な茶目子はオスとの相性も良く、次々と子供をもうけました。当時としては、国内でも屈指の施設で、特にプールなどの飼育水には、六甲山からの伏流水を使用し、周年一定の水温を保ち、快適な水中生活を送ってきました。茶目子は一生の内、二回の波乱に見舞われました。一回目は、夫だった初代の出目

男の不幸な事故による死亡でした。初代出目男との間には、合計5頭の子供をもうけ、最後のオスの子供が二代目出目男として、茶目子と暮らすことになりました。茶目子の温かな性格は、二代目出目男との間にも、10頭の子供をもうけ、育児上手のお手本のような母カバでした。特に、子供が陸上で昼寝をしてしまったときなど、炎天下の夏にも関わらず、その大きな体で一生懸命日陰を作ったりやるなど、ほほえましいエピソードをたくさん残しています。しかし、不幸は繰り返され、初代出目男と同じ事故で、二代目出目男が他界し、また、一頭の生活を余儀なくされました。かわいそうに思った飼育係や職員の努力で、三代目出目男の候補探しに、当時の飼育担当者が奔走し、やっとの思いで、担当者太鼓判のオスが婿入りするこ



とになりました。ところが、手違いから、候補に上がったカバと違うカバが動物園にやってきてしまいました。それでも、茶目子が気に入ったならと、三代目出目男は婿として暮らすことになりましたが、問題は持ち上がりました。すでに茶目子が高齢になっていたのと、三代目出目男との第一子の出産で、しばらく立ち上がれないほど衰弱し、回復に時間を要したことから、繁殖制限として、オスメスを別々の部屋で飼育することになりました。柵越しに愛情表現するカバたちを見て、もう一度産ますべきか？一日でも長生きしてもらうため別々に飼育すべきか？と意見も分かれていましたが、ある日、カバ舎の工事のため、半日ほど一緒に展示場に出さなくてはならず、仕方なく同居させま

した。担当者も半日なら大丈夫と思っていました。しかし、それから、8ヶ月後、元気なオスの赤ちゃんが誕生しました。出産後の茶目子の心配も無く、いつもながら上手に育児する茶目子の姿に、一同大喜びでした。その子カバが、茶目子最後の忘れ形見「ナルオ」です。2000年に入ってから、老年性の皮膚の疾患や足腰の弱り方が著しくなり、獣医の治療回数も増え、飼育係も心配していました。来園者からもたくさんの長寿を願う寄せ書き等も頂きました。高齢者のバリアフリーが人の世界では当たり前になったのをきっかけに、老朽化し、展示場のプールまで急な坂道のカバ舎を、起伏の少ない、高齢な茶目子にやさしい、新しいカバ舎の計画が持ち上がり、2002年にととう工事が開始されました。飼育担

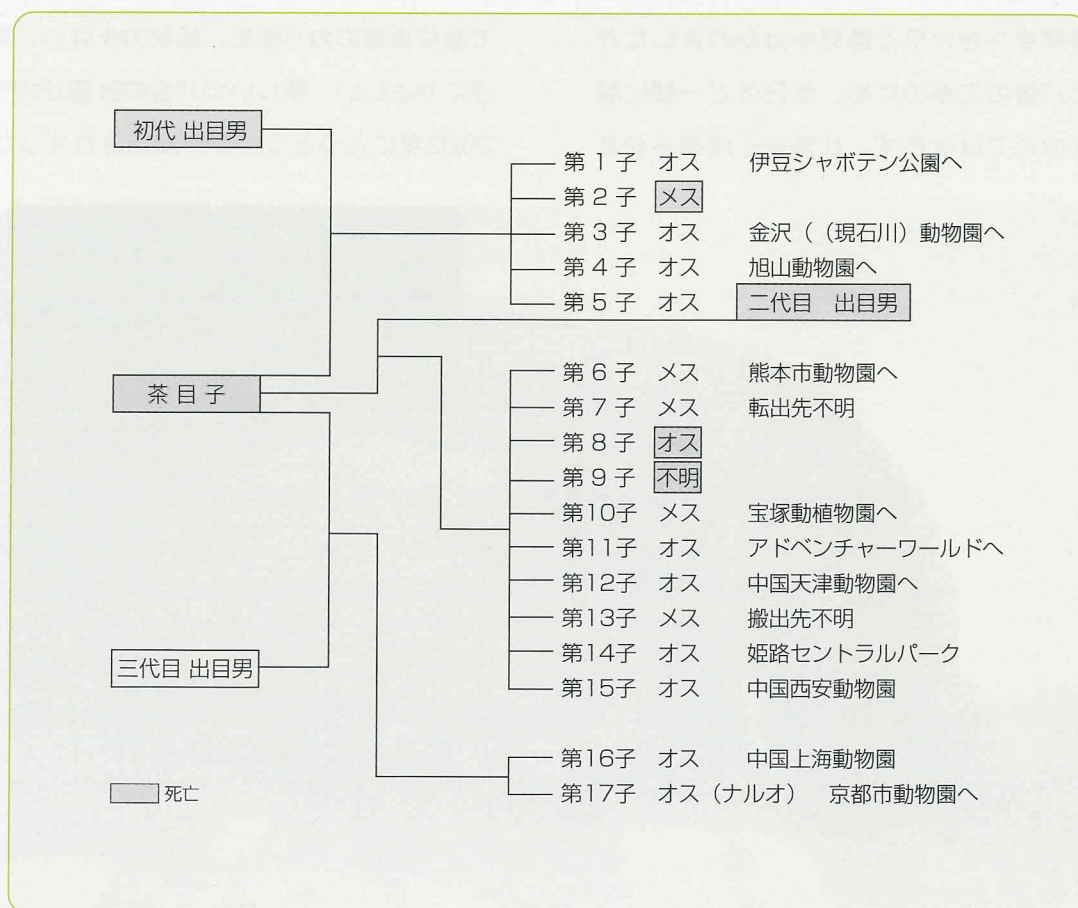


茶目子と子

当者からは、工事の影響が無ければと心配の声もあがりましたが、極力茶目子に配慮した方法で工事が進みました。しかし、その間にも、胸部にあった疾病部位が悪化し、時折大量の出血が見られ、獣医や飼育担当たちの懸命な治療介護が続きました。状態は、一進一退が続きましたが、工事の影響からか、展示場に出るのを嫌がり、室内での飼育が続きました。衰弱も少しずつではありましたが、確実に進み、水中から呼吸の為に頭部を持ち上げるのも四苦八苦することも起きようになり、飼育担当者の心配が一層しました。（カバは体重

があるため、陸上に長時間居ると自分の体重で内臓などを圧迫し、それが原因で死亡する場合があります。）2002年10月27日に、早朝より自力で水中から顔を出して呼吸が出来なくなり、飼育係総出で茶目子の頭部と体にロープをかけ水没しないように、懸命の対処がおこなわれましたが、同日午後、多くの飼育係や獣医、動物園職員に見守られ、眠るように息を引き取りました。残念なのは、茶目子にバリアフリーの新しいカバ舎の暮らしを体験させてあげられなかったことです。

ありがとう、「茶目子」 享年49才





カバ カバ科カバ属

Hippopotamus amphibious



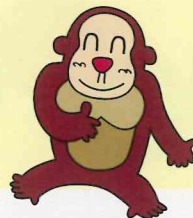
体長3.5～4m、体重2,000～4,000kg、陸上の哺乳動物ではゾウに次ぐ重さを誇る。カバは4亜種（地域亜種）に分けられるが、明確な研究調査は進んでいない。ちなみに、4亜種は、スーダン・アビシニア・ナイジェリアに分布するナイルカバ*1（*Hippopotamus a.amphibious*）、ケニア・ソマリア・タンザニアに分布するケニアカバ（*H.a.kiboko*）、アンゴラ・コンゴ・南西アフリカに分布するアンゴラカバ（*H.a.constrictus*）、南アフリカに分布するケープカバ（*H.a.capensis*）があります。カバは、水中生活に適した体の構造をし、水中から、その鼻・耳・目だけを出して水中にからだを沈めておけるように、顔の前面に飛び出た形です。また、耳は、水中に入る時につぼめられ、出ると回転させ、水の流入を防ぐしくみになっています。乾燥に弱く、またその巨軀からも体重の負

担の少ない水中での生活が日中は中心ですが、夜間には、陸上の決まったテリトリーを徘徊し、植物を摂取します。摂取する植物は、栄養価の低い、繊維質の多い物が中心ですが、たまに水棲植物なども摂取します。水中に6分程度も潜っていることの出来るカバの水中での優雅な動きからは想像出来ないでしょうが、陸上では時速50kmほどで走ることも可能です。水中から出ると、乾燥から、皮膚を保護するためアルカリ性の赤い粘液を分泌します。このことが、カバは「赤い汗」をかくと言われる所以で、この粘液は、衣服に付くとうす赤く着色するほどです。雄はテリトリー主張や闘争時に短い尾を振りながら排便し、糞を撒き散らかすことでマーキングを行います。この行動は雌では見られません。通常5～20頭の雌と子供中心の群れと一頭の繁殖雄、一定の距離を置いた周囲に雄グループで生活しています。周りの雄達は、順位が闘争により常に決まっており、次期繁殖雄を狙って、群の繁殖雄に挑むことがあります。雄同士の闘争は壮絶で、弱点の足を狙い噛み付き合います。重い体重を支えるので、致命傷になる場合もあるようですし、巨大な口と長く鋭い牙での攻撃は、大型肉食獣やワニでさえ襲うのを避けるほどです。カバは、愛情表現や闘争、ストレスなどの回避行動などのほとんどを口を開け閉めすることで表します。妊娠期間は、233日程で、野生ではそのほとんどが水中での出産ですが、動物園などでの飼育下では陸上と水中のほぼ半々で出産します。通常一産一子で授乳はすべて水中で行われます。

動物園での一口メモ

動物園では、草食獣用に作られた、草のブロック（ヘイキューブ）を水戻しし、ふすまやキャベツなどの野菜を混ぜ、青草と共に混ぜ与えます。餌には塩やビタミンなどの微量栄養素も添加します。食事は、1時過ぎと、夕方收容してから一日二回で、食事の時以外は、プールの中で過ごすことが多いのは野生と同じでしょう。また、動物園では、野生での植物の摂取のように牙を摩耗することが少なく、延びすぎる点から、定期的に飼育係が削ってやります。いくら清潔に掃除しても糞を撒き散らかすので、飼育係泣かせでもあります。

出目男 オス 1981.12.23生まれ 1986.9.24搬入



ゴリラ

ショウジョウ科ゴリラ属

Gorilla gorilla



体重は、オスで140kg～180kg（飼育下では200～250kgに達する）、メスでは80～90kg、身長はオスで170～180cm、メスで150cmに達する霊長目最大の動物。その容姿から、凶暴なイメージをもたれ、古くは映画「キングコング」のモデルとなったが、実際は、臆病で温かな性格。霊長類研究者などからは、「やさしき巨人」などとも呼ばれる。ゴリラには3亜種が確認されており、カ

メルーン・コンゴ・中央アフリカ・ギニアなどに分布し、体毛が褐色がかった灰色の、ヒガシローランドゴリラ（*G.g.gorilla*）と、ザイール東部に分布し、黒色の体毛とヒガシに比べ長く感ずる頭部のニシローランドゴリラ（*G.g.graueri*）、ザイール・ルワンダ・ウガンダの標高1650～3790mに分布し、現在の生息数をもっとも少ないマウンテンゴリラ（*G.g.beringei*）がある。どれも成獣のオスは、背部から臀部にかけ、体毛が銀白色の属に言う「シルバーバック」になる。群は、成獣のオスと複数のメス、それとその子供たちから構成され、一個所に定住することではなく、餌となる草や低木、タケノコなどの繊維質の高い植物を求めて移動生活をする。この移動生活は一個所に大量の餌があっても、滞在せず移動するというもので、実際の移動距離は一日に、せいぜい1km前後しかない。大きなゴリラにとっては、移動にスピードが出せず、また、テリトリー主張しないので、これくらいの移動で十分だと言える。

妊娠期間は、約260日で、通常一産一子である。授乳期間は長く2～3年にも及ぶが、4歳未満の死亡率は非常に高く40%にもなる。この事が、生息数の回復に時間を要する要因の一つとも言える。大変デリケートな動物で、心因的な要因が繁殖に大きく影響すると言われ、結果、飼育下での繁殖数の少なさに繋がっているが、最近では、多頭飼育や環境管理などで、各種のストレスの緩和などからも、徐々に飼育下繁殖も観察されている。

動物園での一口メモ

日本の動物園での繁殖例は大変少なく、その要因にペアのみでの飼育や単独飼育があげられている。現在では、全国の動物園が協力して、繁殖施設としての担当動物園などに各地のゴリラが預けられ、複数の群による飼育にて、繁殖の成果を上げている。

当園でも、新施設にての大幅な環境管理改善にて繁殖を目指し、京都動物園への繁殖目的の貸し出し中の個体の再飼育に期待を寄せている。

健太	オス	推定1977年生まれ	1981.6.22搬入
康子	メス	推定1977年生まれ	1981.6.22搬入

Zooっとタイムズ

こども
動物相談から



動物相談

アラカルト

「おじさん!まちがっていたよ…」

こども動物相談室には、近所のこどもたちが遊びがてらによくやってくる。今日も5人連れでやってきて、一番前の席を陣取りしゃべっている。その中の一人が、「おじさん、この前おすライオンのたてがみは、あらそいをしたときけがをしないためだと言っていたけど、まちがっていたよ…この前テレビでは、相手に強く見せるため、また、たてがみが黒いほど相手が恐がるそうだよ」

「そう、おじさんの勉強不足でごめんね…」

子どもたちとのなごやかな会話の中で今日も動物相談が始まりました。

★こども動物相談のご案内

日 時：日曜祝日の 午前 10:00～11:30
午後 1:30～3:00
場 所：動物科学資料館 休憩ホール
内 容：動物相談、紙芝居など

★動物相談箱

動物科学資料館休憩ホールに設置

動物に関する質問を、備え付けの用紙に記入し箱へ入れてください。
後日電話等で回答いたします。

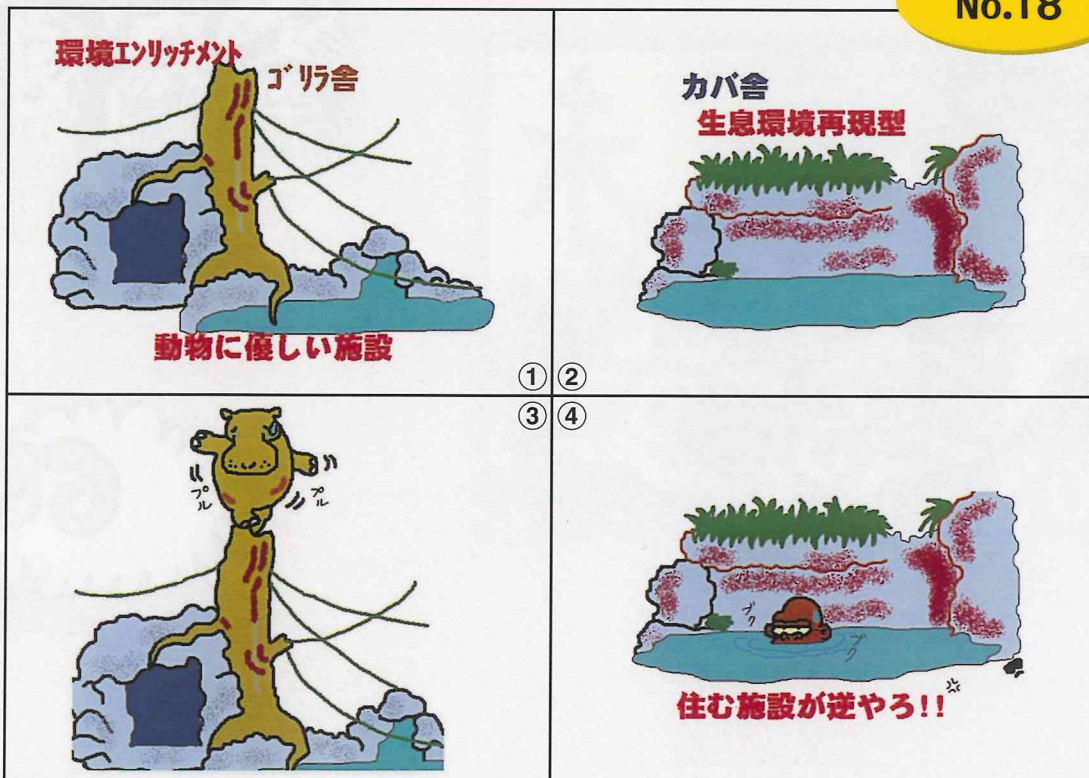
★動物鳴き声テレホンサービス

☎ 078-881-8102



まんが:かわかみひろし

No.18





第35回

「末年」賀状版画

特別賞作品1点

(敬称略)



神戸市長賞 南條和真
(神戸市・箕谷小学校2年)



神戸新聞社賞 山下彩奈
(神戸市・須磨高校3年)



王子動物園長賞 喜始道宣
(姫路市・網干小学校6年)



コンクール



神戸市教育委員会賞 中屋 佑香
(神戸市・竹の台小学校6年)



サンテレビジョン賞 足立賀男二
(神戸市灘区)



神戸市動物愛護協会賞 坂口 航紀
(神戸市・泉台幼稚園)



神戸市公園緑化協会賞 藤尾 徹平
(神崎郡・香呂小学校4年)

金賞……30点
銀賞……100点
応募総数……1,203点
審査……版画家 川西祐三郎先生

★世界の野生のヒツジ

ヒツジは偶蹄目、ウシ科、ヤギ亜科、ヒツジ属 (*Ovis*) に分類されます。
世界には野生のヒツジは現在7種生息しています。



ウリアル
(*Ovis vignei*)

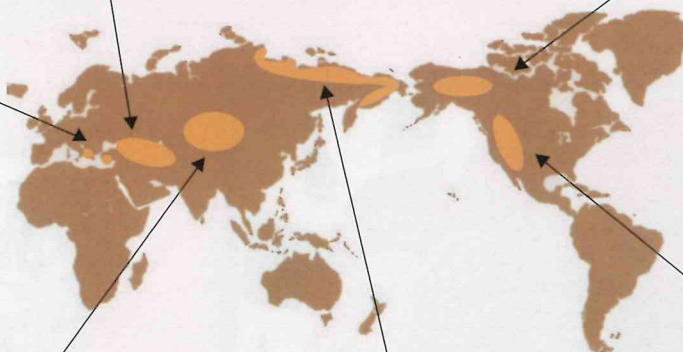


ドールビッグホーン ※
(ドールシープ)
(*Ovis dalli*)



ムフロン
(*Ovis musimon*)

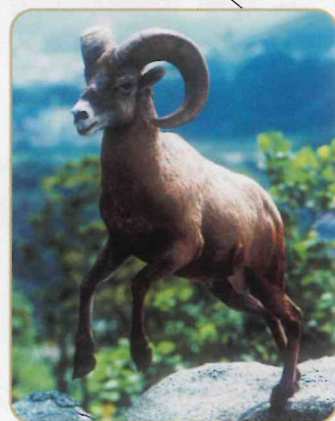
野生ヒツジの分布



アルガリ
(*Ovis ammon*)



シベリアビッグホーン
(ユキヒツジ)
(*Ovis nivicola*)



ビッグホーン ※
(オオツノヒツジ)
(*Ovis canadensis*)

※写真提供 (財)東京動物園協会
イラスト 当園製作

★家畜としてのヒツジ

家畜への道のり

ヒツジが家畜化されたのは今から1万年前ごろで、西アジアの野生種ムフロンを家畜化したのが始まりだといわれています。9000年前になると、西アジアでムフロンは品種改良され、おとなしく、角の小さな家畜種のヒツジがつくりだされ、6000年前ごろヨーロッパに伝わりました。800年前にはスペインメリノ一種ができ、さらに改良がくわえられ、オーストラリアで多数飼育されるようになり、世界中に広まってきました。

日本でのヒツジの飼育

日本にヒツジが持ち込まれたのは今から1400年前ごろでしたが、家畜として本格的に定着したのは、昭和10年ごろからで、昭和32年ごろ100万頭に達しました。しかし、海外から安いヒツジの原毛や肉が輸入されたため、急激に数を減らし、現在は全国でおよそ11000頭しか飼育されていません。

ヒツジの品種

人間とヒツジの長いつきあいの間に、いろいろな品種がつけられました。今では1000種以上もあります。ヒツジは利用の仕方によって、肉用、毛用、乳用、またしっぽや毛の質によって分けられたりします。



※サフォーク



▲ヤコブ



ブラックウェルシュマウンテン



コリデール（当園で飼育しています）



ロムニー

※写真提供 （財）東京動物園協会
▲撮影 後尾まゆみ氏



動物の話題



ベビー
誕生



「ワオキツネザル」性別不明

(2002 (平成14) 年11月16日生まれ)
8年連続で生まれました。

ニュー
フェイス



「ジャイアントパンダ」オス

四川省臥龍大熊猫保護センターから平成14年12月9日来園。2代目「コウコウ」として、神戸の生活にもすっかり慣れ元気に愛嬌を振りまいています。

別れ



「マンドリル」メス (写真中央)

(2003 (平成15) 年1月9日死亡)
1974年7月18日に来園してから28年間以上も活躍しました。





動物病院より

～獣医の仕事って?～



王子動物園の入口からフラミンゴ池に沿って歩くと、左手に「動物病院」という少しばかり古ぼけた建物が見えてきます。ここでは3人の正規職員の獣医師が交代で勤務していて、毎日ばたばたと走り回っています。



動物園に勤める獣医師の仕事といえば、まず思いつくのが園内の動物たちの病気の治療ですね。まさしく「動物のお医者さん」です。昨日はキンシコウが、今日はイグアナが…と、日々大忙し。でも、動物園の獣医師の仕事は、実はそれだけではないんですよ。とってもマルチな才能?が必要とされるんです。



診療といってもいわゆる医師の仕事に加え、あるときは看護師「採血するよ、すぐ済むからじっとしてね（動物は絶対にじっとなんかしてくれません…）」、あるときは薬剤師「チンパンジーの育ちゃん、体重12kgだっけ?下痢止め、成人の五分の一の量でいこう」、またあるときは臨床検査技師「レントゲン、体勢変

えてあと2枚撮ります!」、かと思えば受付事務「2時半からアジアゾウのズゼの採血だから、その後モルモット診にいきますね、名前と番号調べてて」…とても人間のお医者さんのようなスマートさはありません。

加えて個体台帳の管理。例えば、「ライオンのサクラは1998年5月26日白浜アドベンチャーワールド生まれのメスで、2000年11月15日に王子動物園に来て、オスのラオとの間に2001年8月8日に三つ子を産んだ」とか。こうなると区役所の戸籍係ですね。この台帳には、一度も病院のお世話になっていない健康優良児も含まれるんですから。



その他、大学の研究室と共同で、まだ解明されていない野生動物の生態や生理について、研究をすすめています。

多岐にわたる動物園獣医師の仕事。もちろん全て、動物を担当している飼育係や、事務所のスタッフたちの協力があってこそです。今日も獣医は、坂の多い王子動物園の中を…あ、また無線が入りました。「病院応答願います!キリン舎まで来てください!」「すぐ行きまーす（今度は何だ?）」

ぬいぐるみ・ファンシー雑貨

ALFA

株式会社 アルファ

本 社 横浜市港北区新横浜2-3-10 ALFA新横浜ビル4F
〒222-0033 Tel.045-475-1981(代) Fax.045-475-1986

飲みたいものが、
ここにある！

カップ式自動販売機でくつろぎを演出します。

株式会社アペックス

◆お問い合わせ

阪 神 支 社 兵庫県神戸市東灘区御影石町1-4-5 〒658-0045 電話(078)854-0886
神戸サービスセンター 兵庫県神戸市東灘区御影石町1-4-5 〒658-0045 電話(078)854-0886
<http://www.apex-co.co.jp>



 伊藤園

これが、
お茶。



空容器の散乱防止リサイクルに協力ください。

〈無香料・無調味〉



自然を私に。

自然のままに。



ぬいぐるみのクリエイター
株式会社 栄商



ぬいぐるみ専門のメーカーです。

キャラクターOEMの依頼も

小ロットよりお受けします。



キーリング

王子動物園オリジナル LITTLE B パンダ KR



〒235-0041 横浜市磯子区栗木1-23-10
TEL 045-773-3032 FAX 045-773-7924



内田オリジナルパンダグッズ好評発売中!!

「夢ランド内田」では、
歓迎の意味を込めて、
多彩なパンダグッズをご用意しました。
帽子をかぶった雄の興興と
リボンをつけた雌の旦旦
いずれも、版画家の川西祐三郎先生が
描かれた公式絵画を使っています。
二〇〇三年も、あなたと
二頭のパンダが出会った季節として、
忘れられないものになるでしょう。



好評発売中

パンダぬいぐるみ、パンダ石鹸、
パンダハンカチ、パンダミラー、
パンダクッキー、パンダイモパイ
他パンダグッズ

神戸パンダオリジナルグッズ

夢ランド内田 本店

販売店 王子動物園・有名デパート
市内観光所・市内ホテル



茶目子と出目男ファミリー（昭和40年代撮影）

編集後記

昨年に「はばたき」51号を刊行してから色々な出来事がありました。10月には新カバ舎工事が始まったもののその月の末に高齢の雌カバ「茶目子」が他界し、11月には京都市動物園から帰ってくるゴリラのための動物舎改修工事が始まり、12月にはジャイアントパンダの雄が交換され2代目興興のお披露目がありました。限られた予算のなかで、新動物舎、既存動物舎改修はどうしたらよいか、新しく来た動物をどのように世話するか、飼育担当者は日々の世話をしながら動物が快適に過ごせるよう知恵を絞っています。今回の特集はそのような飼育係の工夫を取り上げてみました。また「はばたき」のスタイルを少し変え、今回から飼育している動物の図鑑を入れてみました。何かに活用していただければ幸いです。もうすぐ桜の季節。新しい雄パンダの二代目興興と旦旦のお見合いは成功するのか、新しいカバ舎を出目男は気に入ってくれるのか、お嫁さんをどこから連れてくるか、ゴリラの健太と康子は運動場や遊具でうまく遊んでくれるのか、心配の種は尽きません。ともあれ動物園にいる動物たちがステキな春を迎えてくれることを願っています。

- 特別展開催
- 日曜・祝日…ゾウのしつけ参観・ペンギンガイド
- ふれあい広場…『ふれあいタイム』（団体は要予約）〔毎日〕
- 動物に関する教育支援事業…

『わかるかな？動物たちの鳴き声』

（小学校低学年の郊外学習 要予約）〔火曜・木曜〕

- こども動物相談〔日曜・祝日〕
- テレホンサービス…078-881-8102
- ホームページ…<http://www.ojizoo.jp>
- 休 園 日：毎週「水曜日」

（但し、祝日・休日と重なる場合は開園）、

12月29日から1月1日

はばたき

第52号
2003(平成15)年4月1日発行

企画・監修 神戸市立王子動物園
☎078-861-5624
編集・発行 (財)神戸市公園緑化協会
動物園事業部
〒657-0838
神戸市灘区王子町3-1
☎078-801-5711
デザイン・印刷 (株)岸本印刷所
☎078-846-0815



0 406130 000307
730



R70
環境にやさしい印刷

定価300円(消費税込み)

2003.03.3000